令和6年度　西東京市立保谷第一小学校　学校評価報告書

学校教育目標　◎ よく考え進んで学ぶ子ども（他者の考えを取り入れ、学び続ける　問題解決力の育成）
○ なかよく助け合う子ども（生命の尊さや自他のよさに気づき、相互に思いやる　人間関係形成力の育成）
○ 元気で明るい子ども（心と体の健康に留意し、進んで心身を鍛える　生き抜く実践力の育成）

目指す学校像（ビジョン）
【目指す学校像】　① 子どもを大切にする学校　② 授業の充実に力を尽くす学校　③ 家庭や地域と共にあり信頼される学校
【目指す児童・生徒像】　① 創造的に、そして深く考え、解決することのできる児童　② 自他のよさが分かり、誰とでも関わりあえる児童　③ 基礎的・基本的な学力・体力のある児童
【目指す教師像】　① 授業を第一とし、研修を重んじ、その内容充実に力を尽くす教師　② 児童理解に努め、児童の心に寄り添える教師　③ 当たり前のことは当たり前に、人にまねできないほど一生懸命にできる教師

前年度までの学校経営上の成果と課題
「主体的に学び、問題解決に挑む児童の育成」を目標に、全職員に問題解決型の授業を行う力を付けるとともに、タブレット端末の活用なども含め、指導法や評価の一体化を推進し、すべての子どもたちが分かったと感じる授業を行い、確かな学力を育む。

	具体的方策	***第１回評価***	***課題と対策***	***第２回評価***	***学校運営協議会委員による評価***	***課題と次年度以降の対策***
問題解決力の育成	算数科の研究を通して培った問題解決型の学習過程を各教科等にも活用し、児童に論理的思考力を育成するとともに、児童相互が話し合い、考えを深める授業づくりに努める。	4	タブレット端末を使った資料の活用などを通して、子どもたちが分かったと感じる授業実践を日々行っている。視覚的に課題を捉えることで、理解度の向上に役立っていると考える。また、校内研究を通して、ふるさと探究学習の単元開発を行うことで、子ども達の地域との具体的なつながりが増えてきている。	4	・家庭でもタブレットやプリントで繰り返し復習できるようにしてくれているため、子どもの苦手な部分、得意な部分を知ることができている。また、苦手部分が明確になるとサポートしやすい。 ・「算数科の研究を通して培った問題解決型の学習過程を…」の部分は、子どもたちに論理的に話す力を身に付けさせることで他者と共通理解を得ながら問題解決の糸口を探っていく試みとしても、とても素晴らしい取組だと思う。授業展開も、話し合い教え合いを重視されている点が良いと思う。 ・学校での授業だけでは充分ではなく、それでしっかり理解し自分のものとするには家庭学習は必要だと思うので、タブレットを使ったりと色々と工夫されているのは効果があるのだと思う。 ・タブレットを使って授業を実践するのはとても分かりやすくて良いと思うが、その反面、視力の低下が気になる。	タブレット端末を使った学習の中で、とにかく触れてみる、活動に取り込むといった段階から抜け出し、算数ではeライブラリの活用、今年度校内研究では「ふるさと探究学習」での調べ学習や振り返りの共有など、目的意識をもって学習をすることができた。論理的思考を育むためにも、学習活動を自身でフィードバックすることで、学びが深まるように次年度も引き続き教材の精選を行っていく。
	全ての教科等において、教科で育むべき資質・能力を意識しながら、自らで問題を解決する力を育成する。一方で、漢字の学習や計算の指導などは、確実な定着が図れているか細やかな評価を行う。	4	子ども達自ら問題解決に向けて取り組む授業展開（小グループ活動、実験活動、教え合い活動、出張授業等による気付き）を工夫することで、学習に対して能動的に取り組めていると考える。また、日々の家庭学習（宿題等）において、各家庭に協力を仰ぎながら、予習・復習を自主的に行えるよう引き続き各学級で取り組む。	4		普段の各学年・学級で行われている問題解決型の学習に加え、今年度は小グループによる児童主体の学習活動を校内研究で進めることができた。課題を自ら見付けたり、ゲストティーチャーや地域の方と関わったりすることで、主体的に学ぶ姿勢が身に付きつつあると考える。次年度は朝学習の取り組みを実施するので、引き続き基礎学力の向上にも力を注いでいきたい。
人間関係形成力の育成	「西東京市子ども条例」や「西東京あったか先生」の理念に基づき、人権教育プログラム等を活用して、児童の発達段階を考慮した学習内容を学年ごとに精選して実施する。	3	週に1回のペースで子ども達の良いところを話し合う「あったかタイム」を継続している。日頃から子ども達とどう接するか、心構えについて磨き、学習内容についても各学年の中で相談して進めている。また、総合的な学習の時間で聴導犬の講習会や車いす体験を行うなど、学年に応じた学習を実施している。	3	・他学年と関わることのできるレインボー班はとても良い取り組み。また2年生が1年生に学んだことを発表する場（町探検）があったり、おもちゃ作りを一緒に取り組んだりするなど、互いに良い学びの機会になっている。 ・「レインボー班活動」は、普段あまり接点のない異学年の児童と触れ合う機会を作っていただいたことは、子どもたちの成長にとって貴重な経験の場になっていると思う。また、総合的な学習の時間の中で、ハンディキャップをもった方、多様な方々と私たちは同じ社会の中で共に生きていることを知る機会を作っていただき、本当にありがとうございました。 ・レインボー班活動は、年上・年下との交流に役立っていてとても良い保一小の文化だと思う。今後も続けてほしい。 ・色々な分野の人を招いての出張授業などが多く取り入れられ、児童の視野を広げ、また聞いた話から「失敗」の捉え方などを学んでいるようであり、良い取り組みだと思う。	今年度も教員も週1回で子どもの良いところを話し合う「あったかタイム」を継続してきたことで、人権意識を高め合うことができた。また、聴導犬講演会や車いす体験などのほかに、西東京市子ども条例に関する出前授業を6年生が経験した。市とも連携して、今後も取り組み、個々の教員へ日常的に意識させていきたい。
	異学年による縦割り班活動(レインボー班活動)等を実施することで、下の学年への思いやりや接し方、上の学年への接し方や集団での社会性を身に付ける。	4	レインボー班活動を定期的に行っている。また、6年生による1年生へのお世話や遊びなどの交流、スポーツデーで発表を見合い感想を伝え合う、体力テストで高学年が低学年とチームを組んで実施するといった交流を、現状でできる範囲で広げている。引き続き、できることについて追求していく。	4		年間を通して、意図的・計画的に活動することができた。レインボー班活動は、下学年への接し方など集団での社会性を身に付けるという点において効果的であった。またクラブ・委員会・体力テスト・スポーツデーや学習発表会と、異学年交流を充実させることができた。次年度も充実させていきたい。
生き抜く実践力の育成	体育の授業に加え、動画視聴等の工夫や、体育朝会の定期的な実施をすることで、全校で体力向上に努める。家庭でできる運動を紹介し、体力向上への協力・保護者啓発を図る。	3	体育朝会・集会を定期的に行っている。運動に親しみがもてるように、体育委員会の児童が運動の行い方やこつを動画で紹介するようにしている。また、長縄朝会では、八の字跳びだけでなく、跳ぶ人数や回し方など、多様な取り組み方法を紹介し、学級の実態に応じて参加できるような工夫をしていく。	4	・体育では個々のレベルに合わせた丁寧な指導をしてくださり子どもたちも無理なく楽しく学べていると思う。 ・「体育の授業に加え、動画視聴等の工夫や体育朝会の定期的な実施」の成果が、児童のアンケート結果からよく分かりました。日頃の先生方の取り組みのおかげです。 ・運動に関してもいろいろな角度からのアプローチを生徒と共に模索しているようで興味深い。相談に関しては、教職員に限らず学童指導員などでもいいと思う。 ・短縄旬間や持久走旬間の際に、音楽をかけるのがモチベーションが上がってとても良いと思う。 ・「日記」がとても良い取り組みだと思っていて、日記を通して先生とのコミュニケーションを深められ、先生に悩みも伝えられやすいと思う。 ・「相談の仕方」についても、学校で日頃から相談しやすい環境を整えていただいていることから、児童のアンケートでも「相談できた」「困らなかった」という回答が多かったのだと思う。 ・日頃の悩みを日記に書くことで担任の先生に相談しやすい。	体育朝会は、児童の運動意欲を高めることに有効だった。来年度以降も、長縄朝会は年に2～3回行い、クラスごとの記録の伸びを感じられるようにする。また、体育の学習ではお手本動画を視聴したり、自分の運動の様子を撮影したりして、工夫した授業実践をすることができた。次年度も継続して行うようにする。
	「直接相談する」「日記に書く」などの発達に応じた相談の仕方を伝える。また、相談先はどの教職員でもよいことを伝えていく。	4	学年や発達段階に応じて行えているものと考えている。日頃から相談できているから、ふれあい月間で上がってくる案件は少ないのではないかと考えている。相談先はどの教員でも、という点については、子ども達は養護教諭やSC元担任などに話に行くこともある。引き続き伝えていく。	4		担任の先生だけが相談先にならないよう、すべての教職員が児童一人一人に目を配って職務に取り組むことができた。また、意図的に複数の教員が関われるような体制づくりや、学年経営、日記での交流などを今後も継続していく。次年度以降も、教職員だけではなく、学童指導員とも情報共有を密に、より手厚く児童に寄り添えるようにする。
保護者や地域との連携	ホームページやすぐーるで、適切な時期に保護者が求めているものを情報発信していく。また、保護者・地域の方に協力していただきながら、家庭学習等が充実できるように学習課題を提供するとともに、地域における教育資源の積極的な活用を図る。	3	ホームページ「ほいち日記」による教育活動の様子や、学校だより、各学級通信などを通して、意図的に発信することができている。 「すぐーる」でも、保護者アンケートの実施や、台風が接近した場合の対応など、急を要する場合を含めて有効に活用できていると考える。引き続き、発信に努める。	4	・ホームページやすぐーるで学校の日常のこと、大事なお知らせなど知ることができている。ホームページの中の情報から子どもとの会話のきっかけになることも多い。 ・「学校の情報発信」が保護者アンケートで一番高い肯定的な評価をいただけたのも、日頃から学校の取り組みや児童の様子を発信いただいているからであり、学校への信頼度を示していると言えると思う。 ・すぐーるで連絡を取れるのが便利で助かっている。見落としがちなプリントや、欠席連絡が特にありがたいです。 ・6年生は中学に進学することへの不安もあると思いますが、中学校との交流があることで安心に繋がりとても良い取り組みだと思う。 ・「中1ギャップ」解消の取り組みも素晴らしいと思います。6年生の時点で中学校生活との接触の機会を得られるのは、6年生の心構えを高めるためにも大切だと思う。 ・家庭・近隣学校との連携とは、口で言うより行うことは大変だと思うが、努力を続けることで得られるものは決して小さくないと思う。これからも推し進めていただきたい。 ・6年生が中学校生活をイメージできるように体験や見学があるのはとても良いと思う。今後もぜひ続けてほしい。	「ほいち日記」は、今後も続けていけるように負担にならないようにして作成していく。毎月発行するお便りを学校だよりに一元化したことで、ペーパーレス及び担任の負担を少しだが減らすことができた。学級だよりは各担任の裁量で発行しているが、タブレット端末のGoogleクラスサイトを活用して学級のお知らせをしている学級もあるので、校内研修を進め、今後も各自のできる範囲で必要なことを家庭に発信していけるようにする。
	近隣小中学校と日常的に連絡を取り、小中9年間を見通した教育活動の在り方や生活指導等の連携を強化する。中学校入学への不安感を減らすため、6年生は栄小学校6年生との交流、青嵐中学校の部活動体験等を行う。	4	1学期に本校を会場に小中連絡協議会を行った。生活指導・養護、特別活動、特別支援、中1、教務の5分科会に分かれて情報交換、共通理解を図ることができた。2・3学期は栄小6年児童と交流したり、中学校生活を中学校の教員に話していただく機会を設けたり、3学期には青嵐中学校での部活動体験を予定している。	4		中学校進学への漠然とした不安感の解消のため、新たな試みとして青嵐中学校と栄小学校と本校をmeetでつないで、中学校の教員に小学校6年生向けの話をしていただいた。その結果、6年生児童には「心構え」ができたように思う。また、5年生の総合的な学習の時間で作成した「平松米穀店」のPRスライドを栄小学校の5年生にも紹介した。幼保小連携も、今年度も近隣の幼稚園児、保育園児を招いて1年生と交流授業を行った。次年度以降も1年生、6年生だけでなく、他学年の交流も増やしていきたい。
	「いじめ」「児童虐待」は許さないという意識をもち、子どもの変化を見逃さないよう未然防止に努める。また、定期的に会議をもち情報の共有、関連機関との連携を図る。	3	子どもの気になる情報については、月1回ペースで行っている校内委員会や、週に1回の生活指導タ会で共有している。メンバーに養護教諭やSCも含まれているため、組織としてどのように考えるか、対応の方針を共有している。いじめとみられる事案についても、担任が1人で抱え込まないよう、日頃から子ども達のことを話し合い、すぐに共有できる雰囲気・関係作りに努めている。また、長期休暇前には学校以外の相談機関の連絡先について手紙で周知をした。	3	・以前子どもが友達関係で嫌な思いをしたときに、担任の先生に子どもが相談したところ（なかよしアンケート）、すぐにその子との解決の場を設けてくれました。迅速に対応していただけたことに、保護者として安心と先生方への感謝の気持ちでいっぱいです。 ・「いじめ」「児童虐待」は、見えないところ、隠されたところで発生することが多いため、些細なことでも保護者・地域と学校が情報共有や連携を取っていくことが大切だと思います。 ・成長期にある生徒たちの変化を把握し的確に対処するということは難しいからこそ、学校全体で協力して対処するシステムは、ありがたいと思う。放課後に公園まで足を運ばれたのこと。感謝です。 ・これまでの通級学級から先生が巡回してくれる形になり、先生方の負担が増え大変だと思うが、子どもにとってはいつもの学校で学べるので良いと思う。個別指導計画で担任の先生とも連携がとれ、子どもたちへの理解も深まると思った。 ・特別支援教室に通う子どもは、一人ひとりの子どもに応じたきめ細かい対応を求めて年々増えている状況です。「課題と対策」にあるように、一人の先生が全てを抱え込まずに、多くの先生方に少しずつ関わりをもっていただくことが肝要かと思います。	校内委員会で話し合う内容を厳選するとともに、児童の様子をしっかりと共有できるように、普段から教員間で情報共有をしておく。また、コーディネーターを中心に、情報をまとめたり、教育支援システムを定期的に入力して共有しやすくする。「いじめ」の定義を再度確認をし、必要に応じて「いじめ対策委員会」を開くことを継続して行う。
	しらうめ学級主任を中心に、特別支援教育の充実に努める。また、具体的な指導法を学級担任等と共有し、一人一人の子どもたちの気持ちや考えに寄り添う指導の充実を図る。	3	今年度から巡回型指導となり、施設面等で今まで通りスムーズにいかないこともあったが、今まで当たり前に行っていたことであっても細かく確認していき、巡回校と足並みをそろえる必要性がある。通室児童は、111名からスタートし、10月からは137名の児童が通室する。個別指導計画が担任との連携型に変更したことで、より担任との情報共有ができた。	3		保護者が気軽に相談にできるよう、土曜日の公開授業を利用して相談会を設けるだけでなく、必要に応じて適宜面談や電話相談を行う。連携型個別指導計画や学校生活支援シートの作成、教育支援システムの活用など、在籍学級担任や保護者と連携しながら、具体的な支援方法について話し合い、取り組んでいく。在籍学級で取り組むことができる支援について、啓発、発信していく。
業務改善・働き方改革	会議を行う曜日を工夫する等、授業を通じて子どもと向き合う時間を確保する。また、学年始、学期末に事務整理日を設けることで余裕をもって校務にあたれるようにする。	4	会議の種類、構成メンバー、内容を精選・分化することで、それぞれのポジションで見通しをもって運営することができている。今後も教材準備のための時間確保、業務の効率化を図っていく。	4	・PTAの代表委員が参加する会議も2つの会議を同日にやってくださったり、とても効率よく行っていると思う。代表委員としてとても助かりました。 ・先生方のお仕事は多岐にわたり、毎日本当においそがしいと思います。西東京市立小・中学校PTA・保護者の会でも、毎年「学校生活支援員」や中学校の「部活動支援員」の増員や部活動の地域移行の要望を市へ提出していますが、充分な対応とまでは至っておりません。引き続き改革を進めていただき、先生方のご負担が軽減されることを期待しています。 ・限られた時間で多くのことに取り組まれていて大変だと思います。ありがとうございます。 ・要領、効率をよくし、無駄な時間を省き、プライベートも充実した方が先生方のメンタルもより良くなり、学校の環境もよくなるので、先生方も日々楽しんでください!!	教職員全員が、児童に向き合う時間を確保し、児童への学習効果を落とすことなく、教職員自身のライフ・ワークバランスについても目標をもって取り組むことができるよう、効率のよい働き方を見出していく。具体的には、会議内容と会議時間のより一層の精選、校務分掌組織の改定。また、教科担任制を見据え必要に応じて学年内での一部教科の交換授業を行い、教員の資質・能力の向上を図る。ICT機器も積極的に活用し、教材作成においても効率化を図る。教員が準備にかける時間と、児童にとって有益なものかを常に話し合える職場環境を目指す。